

# 船舶事故調査報告書

令和2年2月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和元年9月28日 11時30分ごろ
発生場所	愛媛県今治市怪島東方沖 来島梶取鼻灯台から真方位189° 2.7海里付近 (概位 北緯34° 04.4′ 東経132° 53.0′)
事故の概要	プレジャーボート <sup>のりゆき</sup> 徳幸丸は、南東進中、干出浜（岩）に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和元年10月17日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 徳幸丸、1.42トン
船舶番号、船舶所有者等	281-13763愛媛、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	舵軸に折損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風速 約4.2m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の初期、潮高 約289cm（今治）
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、約8～10ノットの対地速力で、手動操舵により南東進中、怪島との距離を目測しながら航行していたところ、東方からの風によって西方に圧流され、怪島東岸の干出浜（岩）（以下「本件岩」という。）に乗り揚げた。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.5m、船尾約0.8mであった。</p> <p>船長は、本件岩の存在を知っていたが、本件岩に近寄って航行していたと本事故後に思った。</p> <p>本船には、GPSプロッターがなかった。</p>
分析	本船は、南東進中、船長が本件岩に近寄って航行していたことから、東方からの風によって西方に圧流され、本件岩に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、南東進中、船長が本件岩に近寄って航行していたため、東方からの風によって西方に圧流され、本件岩に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船長は、風潮流等によって圧流されることを考慮し、島や干出浜との距離を十分に確保して航行すること。</li> </ul>